

パフォーマンステスト「旅行代理店」(第8時)

測る力	話すこと [やり取り] : おすすめの国とその見どころを提案し、質問に応じられるか (知識・技能 / 思考・判断・表現)
形式・時間	先生と1対1で約1分×全員。教室前方のテスト席で (待機イス1つ)。子どもが旅行代理店の店員、先生がお客。おすすめカードを持って来てよい。
ことばの条件	黒板の「提案の型」 (How about ...? / You can see [eat] / It's) は掲示したままでよい。早見表 (活動シート1) は先生用に1枚テスト席に置き、見ながら答えてよい。

35人を回す テスト中、ほかの子は何をしているか (これが崩壊しない鍵)

グループ	やること	用意する物
A (テスト中の班)	順に呼ばれてテスト席へ。呼ばれる前と終わったあとは、席でBと同じことをする	おすすめカード
B	旅行代理店・延長戦 (小声で・お客役をこうたい)	活動シート2
C	国あてクイズのペア戦 (小声で・出題をこうたい)	活動シート1・絵カード
D	振り返りカードの「単元のまとめ」を書く (書けたら席でBと同じことをする)	振り返りカード (学校のもの)

1班終わるごと (9~10分) に役割がA→B→C→D→Aと1つずれる (テストを終えた班がBへ、Dの班が次のテスト班へ)。1班8~9人・約1分×35人で35~40分。呼ぶ順は名簿順でなく班ごと (待機イスに座るのは呼ばれる直前の1人だけ)。終わった子は、聞かれたことを話さない——後の子が思い出しテストになる。おすすめカードは机に置きっぱなしにして、呼ばれた子だけ持って来る (配り直しの時間をゼロにするのがコツ)。



先生の質問カードと、評価しないこと

先生の質問カード この順に聞く（子どもによって2～3問でよい）

1 Hello! How are you?

（あいさつ・緊張ほぐし）

2 I want to travel. Which country is good?

（ここから店員役スタート。How about ～？が出たら進める。I want to go to ～. と自分の話で答えた子には And for me? と返し、おすすめにもどす）

3 Oh, nice! Why?

（Why? が You can see を引き出す合図——単元の核。出てこなければ What can I see there? と言いかえる）

4 Wow! Sounds good! Anything else?

（見どころ②や感想 It's が続けられるか。先生のリアクションへの反応も見どころ）

5 （ここで3秒、だまって待つ）

（質問が返ってきたら思判表a。出てこなければ次へ）

6 Thank you! Have a nice day. See you!

（お別れまでがテスト）

評価しないこと 国名の発音の正確さは評価しない（Italy が「イタリー」でも通じれば◎）。知っている国の数、海外に行ったことがあるかどうかとも一切関係ない。文の数や声の大きさは評価しない。見るのは「お客（先生）の顔を見て提案できたか」。

ルーブリック（3観点）と記録シート

観点	a（十分満足）	b（おおむね満足）	c（支援が必要）→その場でする支援
知識・技能	How about 〜? / You can see [eat] / It's を組み合わせ、おすすめの国と見どころ二つを続けて伝えられる	支えの質問を受けながら、国名と You can see を1つずつ伝えられる	早見表の国名2択（Italy? Australia?）で選んで単語+ジェスチャーで伝えられる→その国の絵カードと一緒に指さして You can see を1文だけ言う
思考・判断・表現	相手の反応を見ながら見どころを言いたして Why? にも理由を返し、お客の言葉がとぎれたときには Do you like animals? のような質問をその場で作ってたずね、提案のやり取りを終わらせずに続けられる	質問に合う内容（見どころ・感想）を選んで伝えられる	質問と答えがずれる→質問をゆっくりくり返し、おすすめカードを指さして1つずつ聞く
主体的に学習に取り組む態度（単元全体で）	おすすめカードに相手が行きたくなる見どころを選んで書き、活動でも話がとぎれたところで Why? や相づち、新しい質問を自分から足そうとしていた	活動に参加し、振り返りに手ごたえが書かれている	→振り返りの視点を一緒に選ぶ（「だれのおすすめがいちばん行きたくなった？」から）

迷ったらb。cは「できない子」ではなく「次の一手がわかる子」として記録する。

記録シート 名簿順に○を1つ（テスト中はこれ以上書かない）

番号	名前	知技	思判表	メモ（1語だけ）
1		a b c	a b c	
2		a b c	a b c	
3		a b c	a b c	
4		a b c	a b c	
5		a b c	a b c	
6		a b c	a b c	
7		a b c	a b c	
8		a b c	a b c	
9		a b c	a b c	
10		a b c	a b c	
11		a b c	a b c	
12		a b c	a b c	

この用紙は12行。名簿の人数ぶん印刷して使う（3枚で36人）。態度（主体性）はテスト当日でなく、単元全体の振り返りカードと帯の様子で見る。

この単元の所見文例（通知表・指導要録に）

テストと振り返りカードの記録から、そのまま使える形で。名前・活動名を入れ替えて使ってください。

【知技・a】旅行代理店の店員役として、How about ~? に You can see を重ねておすすめの国と見どころを伝え、It's exciting. と感想の一言まで添えることができました。

【知技・b】国と見どころの早見表を指しながら、行きたい国と You can see の一文を英語で伝えられるようになりました。国あてクイズでは、大陸を示すヒントも声に出しています。

【思判表・a】お客さんの反応を見ながら見どころを言いたし、Why? には You can see で理由を返すなど、旅行代理店のやり取りでは相手が行きたくないように提案を組み立てることができました。

【思判表・b】お客さん一人ひとりに合わせて、同じ国でも紹介する見どころをえらび分けました。行ってみたいと思ってもらうために、感想の It's まで添えて提案することができています。

【態度】旅行代理店の活動では、相手が行きたくなくなる見どころを何度も選び直すなど、粘り強く提案を続けようとする姿が見られました。

【態度】自分の行きたい国について進んで話すだけでなく、友だちのおすすめにも Why? とたずね返し、世界のいろいろな国に目を向けようとしています。

【はげまし型】お客さん役の先生に向けて、まず国名を伝えられるようになりました。見どころは早見表を指しながらであれば You can see と続けられ、おすすめカードに書いた二つを支えに提案しています。

【接続型】You can を使って、相手のためにできることを紹介する経験を重ねました。中学校で学ぶ can の表現や、外国の文化を扱う学習に、そのまま生きてくる力です。

【発展・★3】旅行代理店の店員役では、お客が迷って口ごもった場面でも Do you like animals? などの問いをその場で組み立て、提案をあきらめずにやり取りを続けました。

書き方の型 ①活動名（具体）／②できるようになったこと（評価規準のことば）／③子どもの姿（1つだけ）の3つで組み立てる。並べる順は文例ごとに変えてある——同じ子が1年に何度も同じ文型の所見を受け取らないようにするため。海外に行った経験や家族の旅行には所見で一切触れない（家庭の経済状況への言及になり得るため。提案の工夫と伝え方の成長だけを書く）。★3は「教科書を超えて届いた子」の記録。この★は成績そのものではありません（評価は先生の観点に沿って行います）。